

シリーズ 72



我が家の家庭教育

白磯 向後 美津江

私の家は、この春中学生になる息子と、小学校四年生になる娘、そして主人の両親と私達夫婦の六人家族です。

私の子供達は、とても話が好きで、学校から帰って来ると、雀の子が帰って来た様に賑やかになります。学校での出来事、自分の思った事、昨

夜見たテレビの話、ETC：時には、二人して口喧嘩になり、少しうるさい位ですが、「静か過ぎるより良い」かと好きにさせています。

てて、泣いてばかりいた娘も、この頃は、「お父さん、もう一回やろう！」と何度も挑戦して来ます。おじいちゃん、おばあちゃんも、時には駆け出され、自分が勝った時は、

遊びを通して

大得意です。おじいちゃん

多いのですが、たまに早く帰って来ると、良く子供達の相手をしてくれます。「オイ、狭み将棋やろう！」と主人が言うのと、子供達が、目を輝やかせて飛んで来ます。以前は、負けるとすぐ腹を立

は、相手に花を持たせるのが上手です。近頃は、ファミコンブームで、殆どの子供が、器用にボタンを操作していますが、私の子も例外ではありません。



子供達と一緒にの時間を多くもらいたいと、向後さん一家

トは、何度もやっているうちに、すぐ飽きてしまう様です。

その点、将棋や、トランプは相手の考え方、自分の手の打ち方で、その都度全く違う展開になります。勝敗は、ともかくとして、子供達が、こうした遊びの中から、相手に対する思いやりの気持ちや、時には辛抱する事も必要だという事を、少しでも身につけてくれたらと、私も私なりに、子供達とできるだけ一緒に時間を多く持つ様に心掛けて、いつまでも笑い声の絶えない明るい家庭を築いて行きたいと思えます。

児童・生徒の作品コーナー



南条小学校児童の紹介

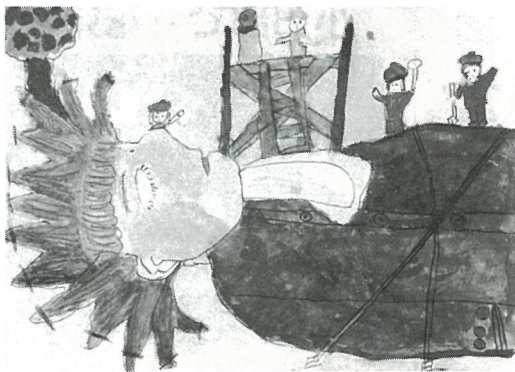


1年 いけだゆりこさん

リボンをきるのが、かみのけをはるのが、たいへんでした。



〔アイスを食べる〕



〔ガリバー〕



2年 池田照子さん

物語の絵をかくのには、とてもたのしみでした。顔の色をくふうしてぬってみました。